

第1章 総論

1 計画策定の趣旨

今日、私たちを取り巻く社会は、少子高齢化や人口減少が急速に進行している中で、学校・家庭・地域が連携した教育力の高いまちづくりが期待されているとともに、持続可能で活力のある社会を構築することが課題となっています。

また、これからの時代は、「人生100年時代[※]の到来」を踏まえながら、「誰一人取り残さないというSDGs[※]の実現」が求められています。さらに、「超スマート社会（Society5.0）[※]」の実現に向けたIoT[※]やAI（人工知能）をはじめとする技術革新が急速に進展するとともに、デジタル・トランスフォーメーション（DX）[※]の推進により、社会や生活が劇的に変わる状況にあります。

このような激しく変化する社会を生き抜くための教育には、市民の誰もが基礎的・基本的な知識を習得できるようにするとともに、変化への対応力、主体的に社会に関わる積極性や、新たな価値を生み出す創造力などを育むことが求められています。このことから、生涯にわたって学習することのできる環境を整備していくことが一層重要になります。

とりわけ、未来を担う子どもたちには、一人ひとりが自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

教育行政における「教育」には、幼児教育・学校教育、社会教育、家庭教育などが含まれ、幼児期から高齢期までの生涯にわたる学習を対象としています。そのため、本計画は、本市の教育施策全体を貫く基本理念と各分野における目標を明らかにし、中長期的な視点から市民の学びを支え、学校・家庭・地域が一体となって、市民全員の豊かな人間性を育むための教育について、一層の振興を図っていくために市と市教育委員会において策定するものです。

※ 「人生100年時代」とは

ロンドン・ビジネス・スクール教授の著書「LIFE SHIFT(ライフ・シフト)100年時代の人生戦略」で提唱された言葉であり、世界で長寿化が進み、先進国では2007年生まれの2人に1人が100歳を超えて生きる時代が到来すると予測しています。

※ 「SDGs (Sustainable Development Goals)」とは

2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標であり、17のゴール(開発目標)から構成されています。

※ 「超スマート社会 (Society5.0)」とは

日本が提唱する未来社会のコンセプトであり、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会を指しています。

◎ Society1.0:狩猟社会、Society2.0:農耕社会、Society3.0:工業社会、Society4.0:情報社会

※ 「IoT (Internet of Things)」とは

様々なモノがインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組みです。

※ 「デジタル・トランスフォーメーション (Digital Transformation (DX))」とは

デジタル技術を活用して、人々の生活をより良いものへと変革させるという概念です。

2 計画期間

令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

◎ 第6次入間市総合計画・後期基本計画と同一の期間とします。

3 計画の位置づけ

この計画は、教育基本法第17条第2項に基づき、国の定める教育の振興に関する施策についての基本計画を参酌しつつ、本市の実情を踏まえた本市教育の振興を図るための基本的な計画として策定するものです。

○ 入間市教育振興基本計画をもって「入間市教育大綱」とします。

◎ 「入間市教育大綱」とは

市長が地域の実情に応じ、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものです。

◎ 参 考（教育基本法）

第17条 政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

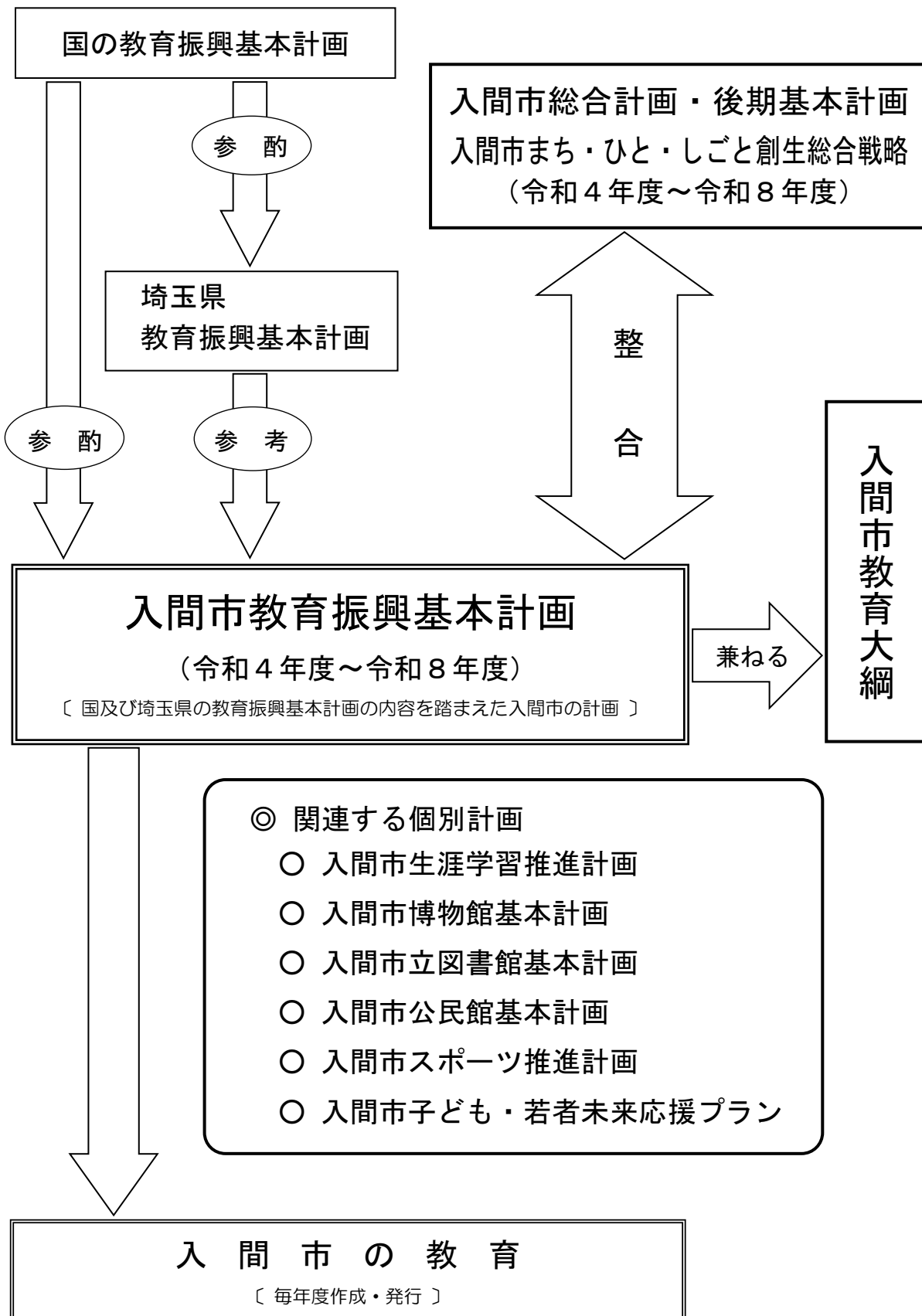
2 地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。

〔参 考〕SDGs 17のゴール「持続可能な開発目標」

2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標であり、17のゴール(開発目標)から構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、日本でも積極的に取り組んでいるものです。

	貧困をなくそう		人や国の不平等をなくそう
	飢餓をゼロに		住み続けられるまちづくりを
	すべての人に健康と福祉を		つくる責任 つかう責任
	質の高い教育をみんなに		気候変動に具体的な対策を
	ジェンダー平等を実現しよう		海の豊かさを守ろう
	安全な水とトイレを世界中に		陸の豊かさも守ろう
	エネルギーをみんなにそしてクリーンに		平和と公正をすべての人に
	働きがいも 経済成長も		パートナーシップで目標を達成しよう
	産業と技術革新の基盤をつくろう		SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

4 計画の全体像



5 教育を取り巻く社会の動向

(1) 少子高齢化と人口減少の進行

少子高齢化と人口減少の進行によって社会を取り巻く環境は急速に変化しており、とりわけ子どもたちの育ちを取り巻く環境は大きく変化してきています。日常生活の中で、人と人が触れ合う機会も減少していることから、子どもの頃から人間関係の持ち方や社会生活におけるルールを学び、日常生活における社会性を身につけていけるような取組が必要とされています。

(2) 人生100年時代の到来とSDGsの実現

長寿命化が進む人生100年時代においては、市民が生涯を通じて自らの人生を設計し、学び続けるとともに、学んだことを生かした活躍ができるようにすることが求められています。また、貧困・紛争・感染症・気候変動・資源の枯渇など、人類はこれまでになかったような数多くの課題に直面しています。人類が安定してこの世界で暮らし続けるため、世界中の様々な立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考え、協働を通して、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現が求められています。

(3) 超スマート社会の実現

超スマート社会(Society5.0)では、IoTによって、すべての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有されることで、今までにない新たな価値を生み出すことが期待されています。また、インターネットやスマートフォン、タブレットなどがさらに普及し、ICT*化が加速することで、様々な変革が起こっていくこととなります。こうした予測困難な時代を生き抜いていくことができるよう、必要な資質・能力を備え、自ら主体的に社会に関わり、多様な人々との交流を通じながら新たな価値を創造できる人材の育成が求められています。

※ 「ICT (Information and Communication Technology)」とは
情報通信技術の総称であり、通信技術を使って人とインターネット、人と人が繋がる技術のことです。

(4) 能力発揮機会の不均衡

経済的な格差が子どもたちの受ける教育の格差につながり、学力や進路選択に影響を与えることで、さらなる格差を生み出すといった格差の再生産・固定化が懸念されています。

また、外国籍の子どもが増加傾向にあることから、外国籍児童生徒の言葉の問題や生活習慣の違いが学力等に影響することも想定されます。格差の再生産・固定化を払拭し、誰もが等しく、主体的・能動的に学び続け、必要とする様々な力を養い、その成果を発揮する機会を等しく与えられることを可能とする社会の実現を目指していくことが求められています。

(5) 家族形態・地域社会の変化

核家族化、価値観やライフスタイルの多様化などにより、家庭や地域社会とのつながりや支え合いが希薄化しています。また、ヤングケアラーと呼ばれる、家事や家族の世話を日常的に行っている子どもたちが存在していることもわかってきました。学校・家庭・地域が連携し、相互に補完しながら、一体となって子どもたちに命の大切さや人権を尊重する心、自然、郷土を愛する心などを培うことの大切さを教え、発達段階に応じた基本的な生活習慣や確かな学力を身につけられる環境を整備していく必要があります。

さらに、子どもたちが安心・安全に過ごせるように、地域力を生かした防犯活動の向上が強く求められています。